



# 第一回和歌山県 データ利活用 コンペティション

明治大学  
NEXTずんだ餅



田辺市の農業活  
性化と誇りの空洞  
化問題の解決策

日本の農村地域が置かれている状況

## 人の空洞化

高度経済成長期に人口の流出  
出生数の減少 転出者の増加

- むらの空洞化
- 産業の外部化
- 集落機能の衰退 高齢化率の上昇

## 土地の空洞化

担い手不足 → 耕作放棄地になってしまう

- 誇りの空洞化
- 定住する価値がない
- 地域の魅力喪失
- 定住する意義

# 田辺市の農業の現状

- 市の総人口 74770人
- 農家人口 7101人 総人口の (9.5%)
- 農家戸数 2112戸
- 専業 1081戸 (51.2%)
- 第一種兼業 288戸
- 第二種兼業 743戸
- 耕地面積 3590ha
- 樹園地 2910ha
- 農業産出額 887千万円

農業年齢別内訳

年齢	～29	30	40	50	60	70以上	計
人数	151	218	389	668	982	1598	4006

# 田辺市の農業は怎么样了か？ SWOT分析でまとめました

## 強み

うめ  
みかん 柑橘類  
川添茶  
スモモ  
レタス



## 弱み

和歌山県の梅のほとんどが田辺で作られていることが知られてない（和歌山県以外で）

## 機会

多くの場合スーパーA・COOP、直売所で販売されている  
取引市場と密着した販売戦略が多い

## 脅威

他の県内自治体とのシェア争い

農村地域の諸問題で一番重要なのは誇りの空洞化問題です。

何故か？

「農業では苦勞することが多い、だから東京や大阪に出して高い教育を受けさせたい」という親世代の発言を聞く。自分の住んでる地域を「こんなところ、、、」とも言っている。



解決策は？

小さい頃から食育を実践し地域の食文化になじみ、地域を理解することです。

どんなことをするのか？



農業を軸に地域に根付いたグローバルな人材育成を目指す



# どのようなことをやるのか？

- ① 地元の高校生をターゲットにした  
更なる農業体験の拡充



加工をメインにした農業体験の拡充を図る

- ② 新たなに商品開発をしてもらう
- ③世界農業遺産認定によりインバウンドが増えている

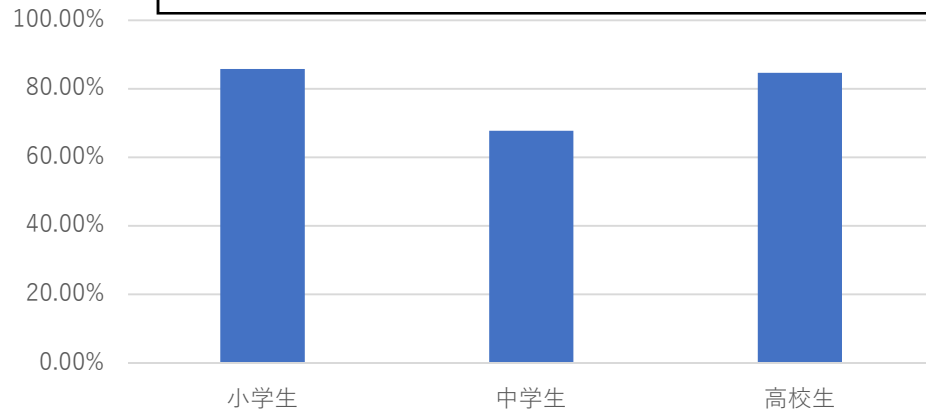


田辺市農業マップを作成する

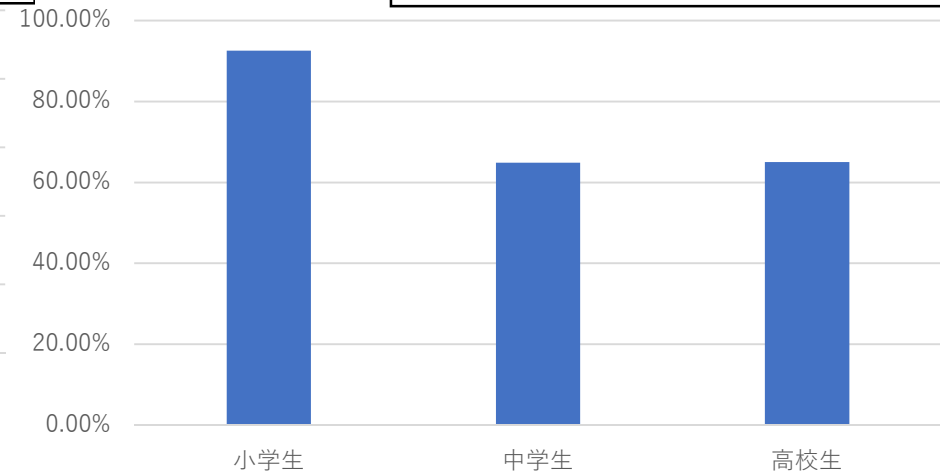


# 地元の子供達の食育の現状はどうか？

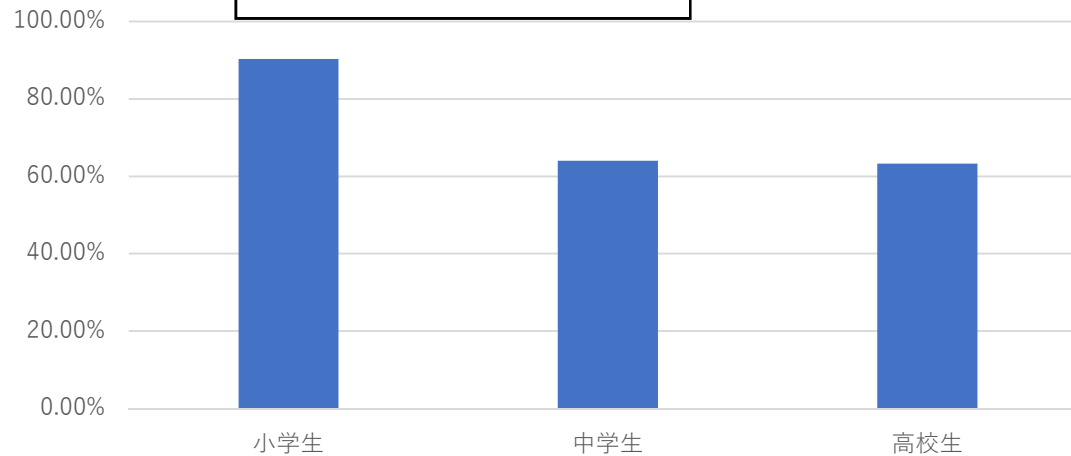
農業体験をしたことがある割合



田辺市みかん認知度



田辺市梅認知度



田辺市内の高校にアンケートを行いました

- 5校中 農業体験は0



- 近畿地方で一番面積が広く農業が盛んな自治体なのに0校です。



- 農業を多角的な面で考えてグローバルな人材育成を目指すのです。

- 高校生が自分たちの自治体のことを理解してない



- 農業はださいとゆうイメージもある



- 6次産業化の推進

## 田辺市は多くの6次産業の取り組みをしている

- 必ずしも1次産業に囚われないことが重要です。
- 直売所、加工工場などの施設の拡充により2次産業、3次産業の担い手の方が必要なのです。
- 高校生自ら商品開発をしてそこから地元での起業とゆう効果も見込まれます。
- 高校生がこうゆう取り組みを行うことにより頑張った生徒がAO入試で大学に入りやすくなるとゆうのも見込まれます。

## 見込まれる効果

- ①高校生自ら商品開発をしてそこから地元での起業とゆう効果も見込まれます。
- ②高校生がこうゆう取り組みを行うことにより頑張った生徒がAO入試で大学に入りやすくなるとううのも見込まれます。
- ③体験型授業の拡充により先生の負担が減る
- ④農業は耕し収穫することだけではないことを深く理解できる
- ⑤田辺市や周辺自治体がどうあるべきか見えてくる

高校生が改めて地元の勉強をする



地元の農業を高校生に  
手伝ってもらおう！

そこで誇りの空洞化を  
防ぐ



地元の高校生が地元の  
良さに改めて気付く

農業を軸とした新たな理解が必要なのです

- 世界文化遺産 & 農業遺産の街 田辺
  - 果樹の街 田辺
- もっと多くの魅力を知ってもらい、主産業である農業から田辺の魅力を知るべきです。



# 使用データ一覧

- H27年 国勢調査
- 15 農林業センサス
- H27年市町村別統計
- 田辺市食育推進計画